



2020 年 12 月 11 日
日本ディベロップメンタルケア（DC）研究会

「2020 年度（第 12 回）NIDCAP トレーニングコース」
「第 2 回 NIDCAP プロフェッショナル・ミーティング」
開催のご報告

日本 DC 研究会では、我が国の早産児ケアに NIDCAP (Newborn Individualized Developmental Care and Assessment Program)を導入し、早産児のディベロップメンタルケアの思想と理論、技術を発展させ、新生児医療の改善と子どもたちの未来を築くことを目的とした教育活動を推進しています。この度、NIDCAP のマスタートレーナーである gretchen Lawhon 先生をお迎えし、第 12 回となる NIDCAP トレーニングコースは、「第 4 期 NIDCAP プロフェッショナル育成」と「NIDCAP トレーナーの育成」を兼ね、リモート形式にて開催されました（期日：2020 年 12 月 1～4 日）。また、12 月 5 日には第 2 回となる NIDCAP プロフェッショナル・ミーティングを開催致しました。

NIDCAP の詳細にご興味のある方は、日本 DC 研究会のホームページ（<https://japan-dcra.jp/nidcap/nidcap.html>）をご参照ください。

■ トレーニング受講者の感想 -----

【NIDCAP プロフェッショナルトレーニング】

● 当院 NICU では 2014 年からディベロップメンタルケアへ取り組むために、スタッフ全員が 7 つのチームに分かれて活動を始めました。数年後からはさらに学びを深めるために、DC 研究会主催の DC セミナーへは毎回 2～3 名ずつ参加するようになり、NIDCAP についても知ることができました。その頃の私達は業務中心の看護となりやすく、家族へのサポートが十分でないと感じ、個性をもった優



しくあたたかい看護を行うためには、どうしたらいいのかという思いがありました。そこで DC をすすめていくために、根拠があるツールのひとつとして、NIDCAP を導入することを病棟の方針としました。

2018 年から第 4 期生として NIDCAP トレーニングを受講し、今回の認定までの期間は自己研鑽や赤ちゃんの観察を続けました。はじめの頃は NIDCAP というものが漠然としかわからない状態のままで、病棟スタッフへ伝えていかなければならないということは本当に難しく悩みました。

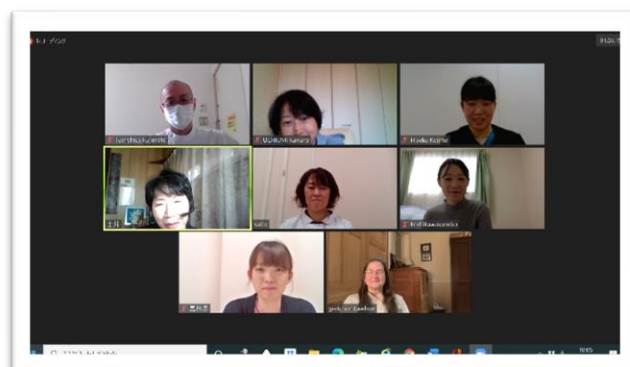
私は今年 4 月から病棟の看護師長となり、実際に赤ちゃんのケアをする機会がなくなり、NIDCAP について直接伝えられないのではないかなという葛藤もありました。しかし、これからは看護師長という立場で、別の視点で広くかかわることができる、という強みを活かしながら、赤ちゃんのご両親そしてスタッフへの支援を続けていこうと思います。赤ちゃんのサインを読み取り伝えることで健やかな成長発達へつなげることができる、という楽しみを教えてくださいましたグレッチェン先生、DC 研究会の皆様、ご支援いただいたすべての方に感謝いたします。

（青森県立中央病院 齊藤 幸子）

● 今回のコロナ禍でしたが、リモートという形でトレーニングを開催していただきありがとうございます。目標としていた NIDCAP プロフェッショナルになることができて、本当に嬉しく思っています。トレーニングが始まった 2018 年は、2 年後の今自分が NIDCAP プロフェッショナルになれているとは想像もつきませんでした。私は赤ちゃんのことをもっと知ってより良いケアを行えるようになりたいという思いから NIDCAP トレーニングの受講を希望致しました。丸 2 年という長期に渡るこのトレーニングを受けることができたのは、DC 研究会の皆様や病院関係者の皆様のご支援とご協力のお陰だと心から感謝しております。ありがとうございました。このトレーニング期間を振り返ると、まず私の中で大きく変わったのは赤ちゃんに向き合う姿勢です。当初は赤ちゃんのサインを読み取ることも意味を理解することもなかなかできませんでした。今では赤ちゃんのサインを読み取って理解しその赤ちゃんにとって 1 番良いケアは何かを常に考えるよう心掛けています。また、施設全体で NIDCAP に取り組む必要性を改めて感じ、大きなことに挑戦しているという責任感も年々増していきました。

当院は青森県内唯一の総合周産期母子医療センターです。NIDCAP プロフェッショナルとしてできることを精一杯行い、施設全体で取り組み NICU スタッフと協力しながら、県内の赤ちゃんの発達を守り赤ちゃんのご家族の絆を支援していけるよう心あたかなケアを目指し日々前向きに頑張っていきたいと思っております。

(青森県立中央病院 宮林 紫)



● アドバンスプラクティカムの課題では、赤ちゃんの成長を、観察を通して見ているのに、その成長をレポートに表現できないことや、観察から導いたゴールやケアの示唆に、自信が持てずに悩んでいました。しかし、トレーナーに、観察やレポートを書く度に的確なアドバイスとポジティブなフィードバックをいただいたことで、できるようになってきました。また、4 期生の仲間がいることがとても励みになり、頑張ることができました。

継続症例が始まる頃にコロナが拡大し、面会制限により赤ちゃん和家人の関りに制限が生じました。制限がある中でも、NIDCAP の理念である赤ちゃん和家人の関りを一番に考え、提言していくことの重要性を、身をもって学ぶことができました。入院中には、赤ちゃんに会うことができなくなった兄弟にレポートを読んでいただいたり、家族が赤ちゃんの反応を理解し成長を実感してもらったりしたこと、自宅でも赤ちゃんの成長と家族との関りを観察し、家族からの言葉で、NICU の看護が好きなこと、NIDCAP を学ぶことができて良かったと改めて感じました。

今回のトレーニングは自施設で、リモート下で実施しました。リモート研修に慣れていないため、始まるまで不安でした。しかし、トレーナーの準備の元、トレーニングはとてもスムーズに、困りもなく進みました。NIDCAP プロフェッショナルの認定をいただいたことは、スタートです。観察やレポートを書く上での自己課題もあります。そして、NIDCAP の理解と定着のための働きかけ、自施設の DC 取り組みのサポートなどの課題もあります。NIDCAP に志願した時の、赤ちゃんに優しい看護、家族と協力し合い看護や医療を提供したいという思いを胸にこれからも取り組みます。

(東京女子医大八千代医療センター 小嶋 久子)

【NIDCAP トレーナートレーニング】

● 青森県立中央病院の齊藤さん、宮林さんの2年間の集大成、信頼性評価（認定試験）となる研修でした。前代未聞のリモートトレーニングで、東京にいる私が「青森の保育器にいる赤ちゃん」の行動観察を現場の研修生と行うことはチャレンジでした。準備も含め戸惑うことも多かったと思いますが、お二人は見事、赤ちゃんの発達状況をアセスメントし、推奨されるケアについて考案する能力があることを証明してくれました。その結果を gretchen 先生に報告し、協議を行った結果、NIDCAP プロフェッショナル認定に至りました。お二人がコロナ禍でも懸命に努力を重ね、能力を向上させてくださったことを、指導担当として大変誇りに思います。また、私自身も gretchen 先生から指導力を評価していただき、大きな原動力となりました。今後は、トレーナー要件を完全に満たすために必要な APIB プロフェッショナル取得を目指してまいります。

齊藤さん、宮林さん、NIDCAP プロフェッショナル認定、本当におめでとうございます。お二人のトレーナーとして恥じぬよう、私も精進を重ね、ともに成長していきたいと思います。今回の研修にご協力いただきました日本 DC 研究会、協賛企業様、並びに関係の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

(NIDCAP プロフェッショナル 東京都立墨東病院 内海 加奈子)

● 私は、2018 年 12 月から第 4 期生の NIDCAP トレーニングに合わせて、NIDCAP トレーナートレーニングを開始しました。そして研修生たちが、数々のトレーニングをこなしてきた結果、2020 年 12 月 1 日の信頼性評価のトレーニングを行うことができました。今回のトレーニングでは、コロナ禍でのトレーニングとなるため、初めての完全リモートでの開催でした。研修生は実際に自施設の NICU で観察し、私は、自分の施設で画面を通してその赤ちゃんを観察しました。実際の音環境や色合いが分かりにくいところはありませんでしたが、そこは実力をつけた研修生の観察力で補うことができました。そして、観察の後は、各自でレポートを作成し、内容についてディスカッションをしながら、レポートの信頼性を確認しました。翌日には、その内容をリモートで gretchen 先生に報告し、最終の 12 月 4 日に NIDCAP 研修生たちが、NIDCAP Professional に認定されました。研修生たちの苦勞が報われた形となったことは、自分のこと以上に嬉しさがこみ上げてきました。



その後で、gretchen 先生より私たち NIDCAP トレーナー研修生へのフィードバックをいただきました。そこで、今回 NIDCAP トレーナーとしての要件として、NIDCAP Professional を育てるということと、昨年認定していただいた APIB（早産児行動評価）Professional であることの要件を満たしたため、NIDCAP トレーナーとして認定いただきました。

これもいつもご支援いただいている DC 研究会の皆様、そして NIDCAP トレーニングについてきてくださった 4 期生の皆さん、丁寧にマスタートレーナーとしてご指導いただいた gretchen 先生と通訳の土井さん、そして日本 DC 研究会、協賛企業様、並びに関係の皆様のご支援のおかげであると感謝いたします。

(NIDCAP プロフェッショナル 姫路赤十字病院 藤本 智久)

【NIDCAP プロフェッショナル・ミーティング】

● 2020 年 NIDCAP トレーニングの最終日（2020 年 12 月 5 日（土））に、第 2 回 NIDCAP プロフェッショナル・ミーティングをオンラインで開催しました。日本の NIDCAP プロフェッショナルの所属する 9 施設 20 名と、私たちの NIDCAP マスタートレーナーである gretchen Lawhon 先生、通訳の土井美智子さんはじめ、研究会顧問の仁志田博司 先生、堀内 勁 先生、関 和男 先生、江藤宏美 先生にもご出席いただきました。はじめてのオンライン開催でしたが、久しぶりに一堂に会し、楽しく有意義な時間を共に過ごしました。

はじめに gretchen 先生より、1) この度の NIDCAP トレーニングで 3 名（2 施設）が NIDCAP プロフェッショナルに認定されたこと、2) NIDCAP プロフェッショナルを養成できる NIDCAP トレーナーに 2 名が認定されたこと、3) Japan NIDCAP National Training Center の設立の条件がクリアされたこと、が報告されました。これにより、私たちの目標であった、日本人 NIDCAP トレーナー 4 名を配した日本人による日本語での NIDCAP トレーニングの実施が実現することになりました。来年は、Japan NIDCAP National Training Center を設立し、NIDCAP プロフェッショナルの養成トレーニングを開催する予定です。広く全国に、NIDCAP プロフェッショナルが誕生することを期待しています。

続いて、各 NIDCAP プロフェッショナルによる近況報告と、gretchen 先生より NIDCAP プロフェッショナルの責任と役割についてのレクチャー、各自の振り返りが行われました。新型コロナウイルスの感染拡大で、親子の関係性支援の難しい状況にあるなか、赤ちゃんの発達支援や親子支援の専門家である NIDCAP プロフェッショナルがリーダーシップを発揮して、ケアスタッフと共に創意工夫をしながらケアに取り組んでいることが共有されました。困難な状況においてこそ、NIDCAP プロフェッショナルの存在が高く評価され、その役割が大きいと思いました。これから益々、NIDCAP プロフェッショナルの活躍が期待されます。

2020 年 NIDCAP トレーニング、及び第 2 回 NIDCAP プロフェッショナル・ミーティングの開催にあたり、ユニ・チャーム株式会社「ちいさな いのち応援プロジェクト」基金よりご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

（日本ディベロップメンタルケア（DC）研究会 会長 大城 昌平）

